

厚生労働省 令和3年度障害者芸術文化活動普及支援事業

北海道・北東北ブロック報告書

アールブリュット推進センター





はじめに

コロナ禍の収束が見えない状況が2年目に入り、北海道・北東北ブロックで特に影響を被ったのが「移動の制限」でした。本事業では4つの道県で協力して共通の課題である「障害者の芸術文化活動支援」へ取り組んでいるわけですが、互いに訪問できず、作品や人材の交流や相互サポートが制限されることは、ブロック事業においては厳しい状況でもあり、昨年度にもまして「オンライン」というインフラの活用に取り組むことになりました。

本書では、北海道・北東北ブロック広域センターの取り組みをまとめるとともに、青森県、岩手県の各支援センターの取り組みもあわせて紹介します。本書が障害者の芸術文化活動支援についての一助となれば幸いです。最後になりましたが、本ブロック事業や本書作成にあたってご協力いただいた皆様に心からお礼申し上げます。

Contents

はじめに	1
I. 障害者芸術文化普及支援事業とは	
II. 北海道・東北ブロックについて	2
III. 広域センターの取り組み	
1. 2021 年の概要	3
2. 発表の機会の確保(1)舞台芸術分野	4
発表の機会の確保(2)美術分野	10
3. ブロック研修	12
4. 未実施県への支援	14
5. ブロック連携の推進	17
6. 情報収集・発信	18
7. 事業評価委員会	20
8. まとめ	21
IV. 支援センターの取り組み	
青森アール・ブリュットサポートセンター(AASC)	22
岩手障がい者芸術活動支援センター かだあると	26
センター一覧	32

I. 障害者芸術文化活動普及支援事業とは

厚生労働省「障害者芸術文化活動普及支援事業」はさまざまな障害者が芸術文化を享受し、 多様な活動を行うことができるよう、地域における障害者の芸術文化活動を支援する体制を 全国に普及し、障害者の自立と社会参加を促進することを目的としています。

2014(平成26)年から3年間を通じて全国12ヵ所で行った「障害者の芸術活動支援モデル事業」の成果やノウハウをもとに、2017(平成29)年から実施しています。

「都道府県」、「ブロック」、「全国」という3つの活動エリアが設けられ、それぞれのエリアに支援センター、広域センター、連携事務局といった支援の拠点が設置されます。2021 (令和3) 年度は、37 都府県に支援センターが設置されたほか、広域センターが7ブロック、連携事務局が2か所に設置され、活動を行いました。

II. 北海道・東北ブロックについて

北海道・北東北ブロックは北海道・青森・岩手・秋田の1道3県で構成され、前年度に引き続き 青森と岩手に支援センターが設置され、社会福祉法人ゆうゆうが広域センターとして採択され ました。北海道・秋田は未実施という状況が続いています。

○広域センター

アールブリュット推進センター Gently

○支援センター

青森アール・ブリュットサポートセンター(AASC) 岩手県障がい者芸術活動支援センターかだあると



III. 広域センターの取り組み

1.2021年の概要

〈発表の機会の確保〉

- ・舞台芸術分野:アール・ブリュットショウケース 2021 オンライン「舞台に上がれ!」
- ・美術分野:障害者のオンライン作品発表会「ダレカガナニカヲツクッテル」

〈ブロック研修〉

- ·相談支援勉強会
- 舞台芸術研修
- ・展示研修
- ・当事者エデュケーター研修会

〈未実施県への支援〉

北海道:

- ・北海道障害者のアート展 みんなのイマジネーション
- ・北海道の作家を紹介する継続的な展覧会

秋田県:

・障害者の芸術文化活動の支援を考えるセミナー「秋田の福祉とアートを支えるために」

共通:

・相談支援体制の周知と強化(北海道、秋田県)

〈ブロック内の連携の推進〉

・ブロック連絡会議

〈情報収集・発信〉

- ・Gently ロゴタイプの導入
- ・ホームページと SNS の活用
- ・広報物の発行

〈事業評価〉

· 事業評価委員会

●実施状況



2. 発表の機会の確保

(1) 舞台芸術分野

厚生労働省 令和3年度障害者芸術文化活動普及支援事業 北海道・北東北ブロック

アール・ブリュットショウケース 2021 オンライン 「舞台に上がれ!」

2018年に始まった「ショウケース」は、北海道・青森県・岩手県・秋田県で音楽や演劇、ダンスなどステージに関する芸術文化活動を行う障害のある人たちのための発表会です。

昨年度から引き続き、新型コロナウィルス感染拡大防止の観点より動画での参加を呼びかけたところ、公募部門 13 作品、招待部門 4 作品、計 17 作品が集まりました。大きな空間・観客を目の前にした発表とはいきませんが、それぞれに工夫を凝らした素敵なステージを届けてくれました。

●概要

公開開始: 公募部門 2021年11月20日(土)、招待部門2021年12月26日(土) ※終了期限なし

配信場所: アールブリュット推進センター Gently YouTube チャンネル

https://www.youtube.com/channel/UCHiP3YoEYHGVaSzEtCF4ohw

主催: 社会福祉法人ゆうゆう

協力 : 社会福祉法人あーるど、社会福祉法人岩手県社会福祉事業団、北海道アールブリュットネットワーク協議会

後援:秋田県、北海道

助成:厚生労働省令和3年度障害者芸術文化活動普及支援事業

関連企画: アール・ブリュットショウケース 2021 オンライントーク

(1) アフタートーク:参加者インタビュー

(2) 今年度の見どころ紹介

(3)「オンライン」発表の可能性

実施成果

出演者数: 招待部門 4 組、公募部門 13 組、計 17 組 再生回数: 3,252 回(各動画の公開後 30 日間の合計) 公募部門募集期間: 2021 年 7 月 29 日~10 月 31 日







●報告·解説

招待部門では、初めてブロック内全ての道県から参加を得ることができました。一方で、公募部門は参加数が昨年度に比べて 大幅に減少しました。岩手県の参加者が半減、青森県からは応募がなかったことが大きく響いています。昨年度は岩手県の「ふれ あい音楽祭」参加者が数多くショウケースにも参加してくれましたが、今年度は岩手県の音楽祭でも参加者数が減少しており、 コロナ禍で当事者の取り組み自体が停滞しているのではないかと推測されます。長期化するコロナ禍で活動する環境について、 今一度注意を払い必要な支援について検討の必要があるかもしれません。

また、より多くの方々に関心を持ってもらうことを目指し、配信コンテンツとしてオンライントークを当センターで独自に制作しました。〈アフタートーク〉は 2018 年・2019 年の会場開催で行っていた出演者インタビューをオンラインで復活させたものです。 提案に応じてくれた公募部門の参加者 7 組にインタビューを行い、その動画を公開しました。〈今年度の見どころ紹介〉では、2 つの支援センターから地域の目線で解説してもらったり、全国連携事務局が感じる当ブロックならではの魅力を語っていただいたりしました。〈「オンライン」発表の可能性〉ではコロナ禍をきっかけに始まった舞台芸術の動画発表における課題感について意見交換を行いました。

【招待部門について】

・招待部門の選考

ショウケースでは「招待部門」を設け、ブロック内の道県ごとに1組を選考し出演を依頼しています。例年、各支援センターに候補となる活動の推薦を依頼していましたが、今年度は次のような方法で出演者を選考しました。

1. ブロック内のセンター 3 団体が、それぞれの県内の取り組みについて候補を検討し、3 \sim 5 組を推薦する。障害のある個人または、 障害のある人が参加する団体とし、舞台芸術に関する取り組みであればジャンルは問わない。

推薦基準(1つ以上当てはまること)

- (1) 独自性・個性のある取り組み
- (2) 10 年以上取り組んでいる
- (3) 地域などで行われるイベントでの受賞歴がある
- (4) 県外(ショウケースは除く)での発表経験がある
- (5) 障害理解を推進するような活動である
- 2. 推薦された候補について支援センターと広域センターで協議を行い、4 組の出演者を決定する。

• 映像制作

今年度のショウケースも動画によるオンライン開催となったため、招待部門は広域センターが動画制作を行いました。映像では出演者の作品・パフォーマンスに加えて、作品の背景や出演者の舞台活動への思いなどを伝えるため、インタビューも盛り込みました。感染拡大防止の観点から北海道を拠点とする広域センターは北東北各県の立会いが出来なかったため、各地域の映像ディレクターと連携して制作を進めました。浅利かれんさん(青森県)の映像制作では、青森アール・ブリュットサポートセンターが現地で撮影サポートを行いました。

●出演者紹介

[招待部門]



浅利 かれん (青森県) (北海道)/伝統芸能

リスト「愛の夢 第 3 番」、ショパン「雨だれの前奏曲 作品 28-15」、ベートーベン「ピアノソナタ悲愴 第 2 楽章 8 番作品 13」

知的障害を伴う自閉症。 $4\sim5$ 才から聞いた歌を誰も教えていないにもかかわらず弾きながら歌っていた。音楽が好きなのだなあとは思っていたが、障害のためピアノを学ぶことは不可能だと思っていた。



おばこシスターズ(茉郁、望)(秋田県)

「大正寺おけさ」、朗読「なまはげ正月」

私たちは、姉妹で地域の文化祭に出演しています。時には、ダンスサークルの中のユニットとして福祉 施設の慰問訪問をすることもあります。



ハンディキャップシアター ShowTime(北海道)

「つまみぐい」

なんとか始まった演劇の授業では、全体のテンポや登場人物の性格による印象の違いを、中学で使われている簡単なストーリー「つまみぐい」を使って学ぶため、立ち稽古に入ります。ところが、ここでも演出家の思い通りにいかないミッフィーと章太郎。演出家唐間割宏樹氏も一緒に立ち稽古が始まります。早いテンポ、遅いテンポでの演技の違いに注目して下さい。



山本貴大(岩手県)

ギター弾き語り「窓」、「じれったい」、「田園」、オリジナル曲「涙は見せたくない」、メドレー Sola 他

中学の文化祭をきっかけにギターを、習い始め、音楽の楽しさを知った。以来、地域のボランティア演奏、イベント、等に参加し活動。松山千春さん、玉置浩二さんに影響を受け、作詞作曲を行っている。「音楽は俺の魂だ!」

「公募部門」



医療法人社団楽優会 札幌なかまの杜クリニック/ 札幌なかまの杜クリニック ボイトレ部

北海道 / 音楽 バーチャル合唱「パプリカ」「いのちの歌」



NPO 法人 逢い ダンスチーム _{秋田県 /} ダンス



菅家正幸 鉄地河原勝彦

北海道 / 音楽

「宇宙に夢中」〜地球のスプラッシュ マウンテンのおまつりバトル〜



クリスタルトーン

北海道 / 音楽

アフリカンダンス

クリスタルな音色をどうぞ



佐々木あおい/銀ノ揺らぎ (佐々木あおい・烏一匹・佐藤夕香)

北海道 / 音楽

「珊瑚ムーン」



札幌なかまの杜クリニック 軽音クラブ

北海道 / 音楽

なかまの杜 軽音クラブの演奏



さっぽろ太鼓衆 風

北海道 / 伝統芸能

畑の中で和太鼓演奏「村場流八丈太鼓」 「寄せ太鼓」



高舘将太

岩手県 / 音楽

2021 サマーコンサート



立花収慈

岩手県 / 音楽

「太陽の少年」「未来飛行」「追憶」「メロ ディー」「幸せのランプ」



放課後等デイサービスほたて

北海道 / 音楽・ダンス・伝統芸能 放課後等デイサービスほたての子ども達の

作品



北海道ネッツ

北海道 / 紙しばい

「インコのジョジョとケイコちゃん」



北海道紋別高等養護学校 新体操部

北海道 / 身体表現

北海道紋別高等養護学校 新体操部 団体演技



Mr. 達哉とラン&ドリーの 仲間たち

北海道 / 音楽・ダンス

「夜に駆ける」「Permission to Dance」

■公募部内参加者内訳

北海道10組、青森県0組、岩手県2組、秋田県1組

【関連企画:アール・ブリュットショウケース 2021 オンライントークについて】

(1) アフタートーク:参加者インタビュー

医療法人社団楽優会札幌なかまの杜クリニック/札幌なかまの杜クリニック ボイトレ部、NPO 法人逢い ダンスチーム、菅家正幸 鉄地河原勝彦、クリスタルトーン、佐々木あおい/銀ノ揺らぎ(佐々木あおい・烏一匹・佐藤夕香)、さっぽろ太鼓衆風、高舘将太、 北海道ネッツ (計 7 組)

(2) 今年度の見どころ紹介

当事業の全国連携事務局と北海道・北東北ブロックの支援センターをゲストに迎えて、今年のラインナップと見どころを紹介しました。

(3)「オンライン」発表の可能性

オンライン開催2回目となったショウケース。見えてきた「オンライン」の課題や今後の可能性について意見を交わしました。

(2)(3) ゲスト:

金野有実 岩手県障がい者芸術活動支援センターかだあると/社会福祉法人岩手県社会福祉事業団

錠前一真 青森アール・ブリュットサポートセンター [AASC] /社会福祉法人あーるど

田中真実 特定非営利活動法人アート NPO リンク

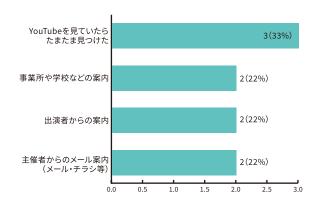
兵藤茉衣 株式会社 precog

進行 壽﨑琴音 アールブリュット推進センター Gently /社会福祉法人ゆうゆう

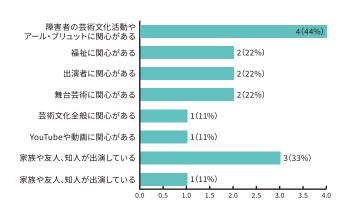


● 視聴者アンケート (集計期間:各動画公開後20日間)

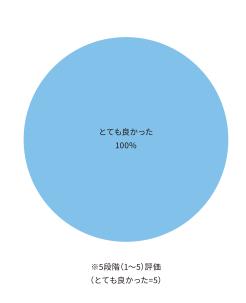
このイベントを何で知ったか (n=9)



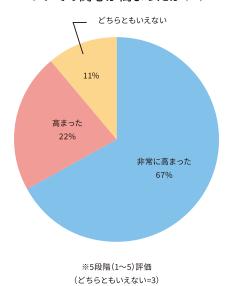
鑑賞の理由 (複数回答可) (n=9)



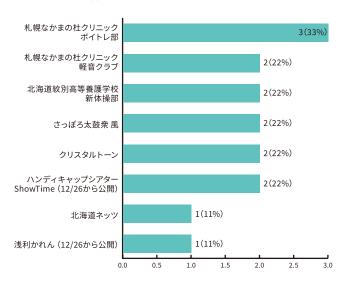
このイベントをどのように感じたか (n=9)



このイベントで障害者の芸術文化活動に ついての関心が高まったか (n=9)



特に良かった思うプログラム (複数回答可) (n=9)



2. 発表の機会の確保(2)

美術分野

厚生労働省 令和3年度障害者芸術文化活動普及支援事業 北海道・北東北ブロック 障害者のオンライン作品発表会

ダレカガナニカラツクッテル

この発表会は、北海道・青森県・岩手県・秋田県で日ごろから創作をしている障害のある人のためのオンライン作品展です。206名の方々が"今、一番見てほしいと思う作品"1点を選んで参加してくれました。絵画、イラスト、立体、書道、写真・・・。作風もテクニックもさまざま。ホームページやSNSで発信している人だっています。こんなこともアリ!?なんて発見もたくさんあるはず。つくった人が大切にしている想いあふれる"ナニカ"見つけてください。



●概要

公開日時: 2022年3月1日(火)~8月31日(水)

公開サイト: http://darekagananikao.net

主催: アールブリュット推進センター Gently /社会福祉法人ゆうゆう

協力:社会福祉法人あーるど、社会福祉法人岩手県社会福祉事業団、北海道アールブリュットネットワーク協議会

後援:北海道、青森県、岩手県、秋田県

助成:厚生労働省令和3年度障害者芸術文化活動普及支援事業

実施成果

参加者数:207組(北海道 129人、青森県 57人、岩手県 19人、秋田県 2人)

アクセス数 475 ユーザー、3,026 ビュー(集計期間 3/7 ~ 3/31)



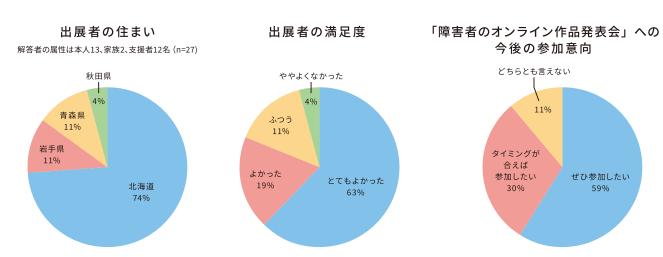
当ブロックでは北海道以外の3県にそれぞれ公募展の取り組みがあり、概して充実したものになっています。コロナ禍における移動制限や当ブロックの広域性などを鑑み、作品の実物を観てもらう・触れる機会は各県で開催されている公募展が担うと考え、今年度はブロック合同展ではなく、ブロック内に在住する障害のある人から直接応募してもらうオンライン公募展とし、より広範囲へ向けた発信と交流を広域センターが担うことを目指しました。

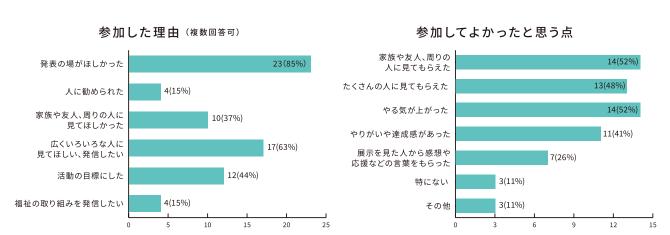
作品は画像データで募集し、応募作品は審査なしに全てオンライン上で紹介。作家自身による発信性を重視し、応募者による作品解説やコメントを掲載しました。また、近年はツイッターやInstagram等のSNSを活用する当事者も見受けられることから、鑑賞者を作家サイトに誘導できるようにホームページ /SNS のリンク機能も設定しました。



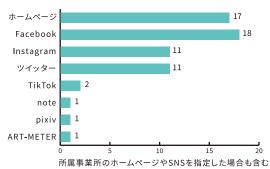
●参加者の声 (自由回答より抜粋)

- ●今後も定期的に発表の場を作っていただけましたら、大変ありがたいです。
- ●作品は生で観るのが一番とは思いますが、コロナ禍での対応、展示準備などを考えるとこういう方法もとてもよいと思いました。
- ●コロナに関係なく、元々移動が困難な方も閲覧することができます。
- ●時代の流れにあっている作品発表会であると感じました。大きな作品でも搬入搬出の手間もなく、手軽に出展できる点が魅力的 だと感じました。
- ●一つ一つに作品のテーマがあって面白い世界観が広がっていることに気が付けました。
- ●展示方法は、絵画作品、立体作品、書、など分類分けすれば見やすい気がしました。
- ●とにかく続けて欲しい。継続支援することが障がいのある方々にとっては必要です。
- ●みたひとはうれしくなってくれるでしょうか。それだけがきがかりです。
- ●かんそうをおききするきかいがあるとありがたいのですが。





参加者のホームページ・SNS 等の利用状況 (リンク機能を利用した人数)



3. ブロック研修

支援センターのサポートとして、今年度は研修会を大幅に増やし、好評を得ました。コロナ禍以前は北海道・北東北のどこか 1 カ所に 集まることのハードルの高さから、ブロック会議の同時開催=年 3 回程度でしたが、オンライン環境の向上により、研修日程を組み やすくなったことは、当ブロックにとって大きな意味があります。コロナ禍で全国連絡会議での交流の機会もなくなってしまった 現状では、他ブロックの参加者も受け入れることで議論や事例の幅も広がり、センターが 2 つしかない当ブロックではセンター担当者 という同じ立場・同じ目線を共有できることが特に有効となりました。

●相談支援勉強会

ブロック内センターを対象にブロック内の相談支援の質向上のための勉強会を継続的に実施し、各センターで実際に寄せられた相談 事例の検討や、他ブロックの相談事例も取り上げるなどして議論を行いました。

実施日:2021年9月29日、12月10日、2022年2月19日(全3回)

参加者による事例検証、意見交換。

実施方法:Zoom ミーティングによるオンライン開催

対象:北海道・北東北ブロック関係者

参加人数::第1回3名、第2回5名、第3回4名

●舞台芸術研修

道県担当者も交えて、ブロック内において舞台芸術分野に対する理解を深めるために、ブロック内外の取り組み状況や支援の事例を紹介する研修を行いました。

実施日:2021年12月13日

実施方法: Zoom によるオンライン開催

講師: 坂野健一郎氏(東海・北陸ブロック広域センター/新潟支援センター)、

嵯峨昌紀氏(佐賀県芸術活動支援センター)

参加者:8名(ブロック内支援センター、県担当者)

●展示研修

青森県の支援センターのほか、北海道の事業所からも要望のあった、展示方法の基本を学ぶ研修を行いました。研修では、ギャラリーで収録した実演映像を使用しながら解説や質疑応答を行いました。展示の質が向上することで、作品や当事者の創作活動がより的確に伝えられます。本研修では、ブロック内の事業所や他ブロックの支援センターの参加も受け入れ、より幅広い意見交換を促しました。

実施日: 2021年12月27日

実施方法: Zoom によるオンライン開催

講師: 大友恵理(アールブリュット推進センター Gently)

参加者:11名(ブロック内支援センターおよび事業所、他ブロック支援センター)



●当事者エデュケーター研修会 岩手から広げる「であい授業プロジェクト」

ブロック内のセンターに共通して、作品の発表にとどまらず当事者自身が自らのことや芸術文化活動について発信する場を広げたいという意識があることから、その実現のために支援者が学ぶべきノウハウについて研修を行いました。当事者自身が講師となって発信をすることで、芸術文化活動の価値や意識をダイレクトに伝え、ひいては障害の理解に繋がると考えています。

実施日: 2022年3月10日

実施方法:Zoom によるオンライン開催

講師:板垣崇志(しゃかいのくすり研究所代表・るんびにい美術館アートディレクター)、小林覚(るんびにい美術館 アーティスト) 参加対象:北海道・青森県・岩手県・秋田県の福祉関係者や創作指導員、学校関係者、自治体職員ほか、障害のある人と関わる方

内容:「であい授業」授業風景(録画)の視聴/板垣崇志さんによるレクチャー

参加者:36名

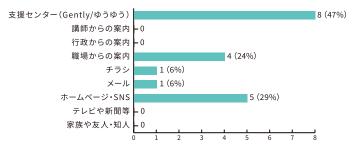




●参加者の声 (一部抜粋)

- ●「その人の特技を伝える」ではなく「その人の心や時間を、自身での発信が難しい本人の代わりに行う」こと。また、時間差でアンケートをとるという手法に驚きました。
- ●障害ある方の内にある心を聴く姿勢やご対応、特にプロジェクトの中心に当事者がいらっしゃることに感銘を受けました。本人の 想いを言語化させる大切さも同感しました。
- ●内容も共感しやすく、わかりやすかったですが、特に「障害」を知るんじゃない「人」を知るんだ。というコピーなども、とても 入りやすかったです。
- ●九州から参加しました。今後もオンラインで各地域の取り組みを知る機会をいただけたらとても嬉しいです。

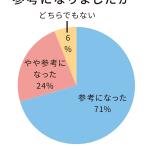
研修会を何でお知りになりましたか? (複数回答可)



参加した理由(複数回答可)

障害者の芸術に関心がある 13 (77%) 福祉に関心がある 9 (53%) 岩手県に関心がある 2 (12%) 芸術文化に関心がある 9 (53%) 講師に関心がある 11 (65%) 創作支援に興味がある 9 (53%) 家族や知人・友人に勧められて 1 (6%) 無料だから 1 (6%) その他 - 0

「当事者エデュケーター」に取り組んでみるための 参考になりましたか



4. 未実施県への支援

北海道·秋田県共通

●相談支援体制の周知と強化(北海道、秋田県)

・チラシの制作・配布 7.000 部

・ユニボイス (視覚障害者向け音声ガイド) 2021 年 9 月に配布 (北海道・秋田県の協力)

・秋田県の相談体制強化

地域アドバイザー(秋田県)を設置し、NPO アートリンクうちのあかり安藤郁子さんに依頼。問い合わせ窓口として LINE を開設し、アクセス向上を図りました。

相談件数:30件(北海道:23件・秋田県:2件・その他:5件※)

※主に北海道外より北海道作家に関する問い合わせ

その他

発表の機会に関する相談者は、北海道障害者のアート展やオンライン作品発表会での発表につながっています(当事者本人による相談のおよそ 9 割に及ぶ)。

北海道

●北海道障害者のアート展 みんなのイマジネーション

北海道の協力の下、北海道在住の障害のある人を対象とした公募展を開催しました。当センターには発表の場を求める相談が多く 寄せられていますが、これまで北海道で障害のある人が障害種別を問わずに自由に参加できる場がほとんどありませんでした。そこで 北海道と共催で本道における開かれた発表の場としての公募展を開催。道内の創作活動状況の把握の一助とするとともに、支援 センター設置に向けた議論の促進を目論見ました。

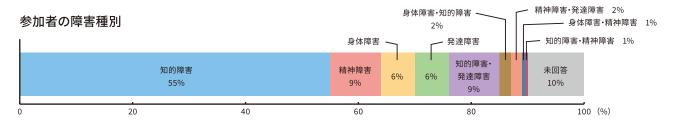
開催期間: 2021年10月6日~10日※5日間

会場:札幌市民ギャラリー

参加者数:179 組・179 点(平面 159 点・立体 20 点)

来場者数:のべ 495 人

●参加者アンケート



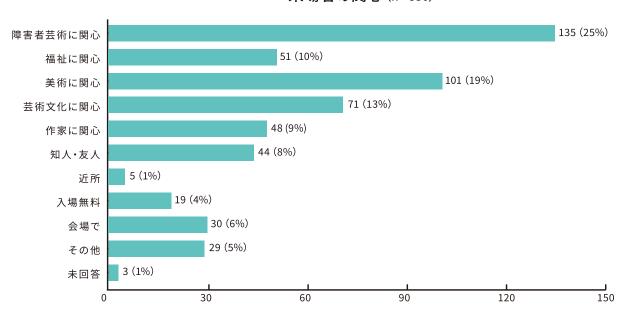
地域別出展者数

道央:102名				道東:27名			道南:21名		道北:29名				
石狩	空知	後志	胆振	日高	網走	十勝	釧路	根室	渡島	桧山	上川	留萌	宗谷
68	16	10	4	4	2	21	4	0	21	0	22	0	7

●来場者の声 (自由回答より抜粋)

- ●「障害者のアート展」というタイトルに、障害者の方達の作品とは思えないくらい素晴らしい物もたくさんあり、なんとなくその言葉はいらないのではないかと 思ってしまいました。
- このような機会を与えてくださりありがとうございます。優劣のない、賞を競い合うことのない展示会!心を表現することでみんなが笑顔いっぱいになれるってすごい!
- ●作品製作時の思いなど知りたい。みんなすばらしい作品でした。もっと見たいですし、家にかざりたい。買ってもいい!と思いました。
- ●作品として形になると障がいの有無は関係ないと改めて感じました。たくさんの方に見て頂ける機会を与えていただき感謝しています。
- ●「作品」だけを評価してほしい展示会であればこのままでよいと思いますが、「障害者」のとかかげているのであれば創作方法がわかってもよいのかな…と感じました。
- 利用者さんの作品を出品させて頂きました。保護者の方も喜んでくれていました。本人は、アート展についてわかっていないので支援者や家族の人たちだけの満足になってしまいますが、まだ色々な事ができるかもしれないという希望になりました。

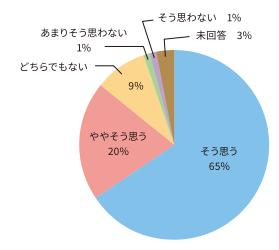
来場者の関心 (n=536)



障害者芸術の鑑賞歴(n=268)

未回答 | | 5% | 日頃から | 14% 初めて | 30% | 同度か | 41%

障害者芸術への関心が高まったか(n=264)



北海道

●「北海道の福祉とアート」シリーズ

北海道アールブリュットネットワーク協議会が取り組んでいる、北海道の作家を紹介する展示会の開催を支援しました。会場となるギャラリーは株式会社中原電気商会が SDGs 活動の一環として運営しており、道内の障害のある人の作品を紹介する展覧会が一つの柱となっています。一般企業と共に障害者の芸術文化活動を継続的に発信することで、これらの活動が広く認知されることが期待されています。

8月18日~9月10日	杉ちゃんブラザーズ「まネッコ大好き」展 杉田希望&杉田宇宙二人展(二人の描いた時間)	697人
10月5日~10月29日	アトリエ KUUMUUS「ビぎナーズ」	752 人
12月15日~1月21日	菊地政司と剣渕西原学園展	337人
3月4日~3月23日	日高のアール・ブリュット	630 人



会場:NAKAHARA DENKI Free Information Gallery(札幌市中央区北 2 条西 2 丁目 29-1 札幌ウイングビル 1F)

https://fig.nakahara-denki.co.jp

展覧会数:4本

入場者数:延べ 2,416 人

秋田県

●障害者の芸術文化活動の支援を考えるセミナー「秋田の福祉とアートを支えるために」

支援センターが未設置である秋田県において、県内の福祉団体の協力の下、障害者の芸術文化活動の価値や意義をこれまで芸術文化活動へ取り組んでいない団体や関係者に向けて発信するとともに、支援センターへの関心喚起や設置に向けた協力者のプラットホーム形成のきっかけとなるような交流の場づくりを目指しました。

県内外で障害のある人の芸術文化活動の支援に取り組む実践者を迎えてセミナーを開催し、秋田県におけるこれまでの取り組みを 改めて振り返るとともに、今後の県内の芸術文化活動において求められる支援センターの形について意見を交わしました。基調講演 では又村あおいさん(一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会)から福祉領域における芸術文化への期待やビジョンなど、続いて 青森アール・ブリュットサポートセンターを担う大橋一之さんより支援センターの事例紹介、県内で福祉とアートに携わる3名にそ れぞれの実践事例をご紹介いただき、最後は登壇者全員による意見交換を行い、秋田県における障害者の芸術文化活動の可能性を共 有しました。

開催日:2022年1月19日

開催方法:Zoom ミーティングによるオンライン開催

参加者数:15 名

○プログラム ※敬称略

- 1. 基調講演「アートがつなぐ、アートでつなぐ」 講師:又村 あおい(一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会 常務理事兼事務局長)
- 2. 支援センターについて「青森県における支援センターの事例紹介」 講師:大橋 一之(社会福祉法人あーるど 理事長)
- 3. 秋田県内の取り組み
 - (1) 心いきいき芸術・文化祭について 講師: 鹿子澤 佑介(社会福祉法人秋田県身体障害者福祉協会総務企画課主事)
 - (2) はだしのこころ展のこれまでとこれから 講師:安藤 郁子(NPO 法人アートリンクうちのあかり 代表)
 - (3) アーツセンターあきたについて 講師:藤 浩志(NPO 法人アーツセンターあきた 代表)
- 4. ディスカッション「秋田の福祉とアートを支えるために」

コーディネーター:又村あおい パネリスト:大橋一之、鹿子澤佑介、安藤郁子、藤浩志





●秋田県支援センター設置へ向けた意見交換会

追加プログラムとして、上記セミナー参加者を中心に県内関係者を集め支援センター設置に関する意見交換会を実施し、次年度の 準備の動きにつなげられるよう支援センターのより具体的なイメージを紹介しました。

開催日:2022年3月22日14:00~15:30

出席者:秋田県の関係者5名、アーカイブ共有7名

講師:坂野健一郎(東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センター長/社会福祉法人みんなでいきる)

内容:

前半 支援センターについてのレクチャー (事例紹介や業務内容など)

後半 意見交換 (秋田県における支援センターのあり方について)

5. ブロック内の連携の推進

ブロック連絡会議

チームコミュニケーションツールとして slack を導入し、ブロック内センター間のコミュニケーションの活発化・効率化を図りました。些細なことでもブロック内で共有・相談しやすい環境づくりにより、問題や悩みの早期解決を図ることで事業の質の向上を目論見ました。4 自治体のうち、3 自治体はシステム・セキュリティ上、Slack を使用できない環境にあったため、メール連絡も従来どおり併用することになり、コミュニケーションの場が分散。広域センターとしては2倍の対応が必要になるなどのマイナス点も出てしまいました。支援センター2団体は導入することができたため、各担当がツールに慣れることで、今後センター間の連絡が徐々に向上することが見込まれます。

第1回会議

2021年7月27日 オンライン開催

参加者8名、オブザーバー7名

内容:各センター事業計画の共有、ブロック 連携事業に関する意見交換、ワークショップ

第2回会議

2021 年 12 月 13 日 オンライン開催

参加者6名

内容:各センター進捗状況の共有、ブロック 連携事業に関する意見交換、舞台芸術に関する 研修会

第3回会議

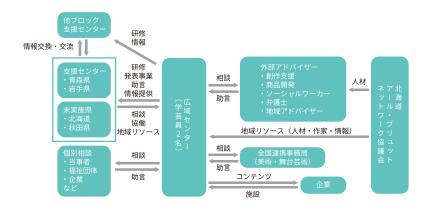
2022 年 3 月 10 日 オンライン開催

参加者8名

内容:各センター事業報告、次年度事業に 向けた意見交換

その他

今年度は支援センターにとってコニュニケーションの場でもあった合同展を実施しない代わりに研修会の回数を増やしたことで、コミュニケーションの機会が増え、とくにブロック会議とは異なり雑談などをしやすい少人数の研修会・勉強会が悩み共有や情報交換の場として役立つ結果となりました。



6. 情報収集・発信

Gently ロゴタイプの導入

これまで当センターには特定のロゴデザインがありませんでしたが、今年度よりロゴタイプを導入しました。障害のある人にとって優しく見やすいデザインとなるよう太さや形が工夫されています。

アールブリュット推進センター

Gently

ホームページのリニューアル

- ・デザインの刷新
- ・当センター以外の活動や募集を発信する「他団体からのお知らせ」
- ・情報がより探しやすい「タグ機能」
- ・イベント情報等の投稿機能
- ・支援センター等のリンク更新

成果

・ホームページ

投稿数:32 、アクセス数:6,164

·SNS

Facebook (北海道アールブリュットネットワーク協議会)

投稿数:108、リーチ:7,737

- ・メディア掲載 9件
 - 北海道新聞 2021 年 9 月 4 日 「障害者のアート作品募集」
 - 北海道新聞 2021 年 9 月 9 日 兄弟で異なる絵楽しんで 自閉症の 2 人、札幌で作品展
 - 読売新聞 2021 年 10 月 9 日 障害者のアートー堂に 札幌 全道から 179 作品
 - まめぷろマガジン 2021 年 11 月 2 日 色とりどりのイマジネーションに魅了される「北海道障害者のアート展」
 - 北海道新聞 2021 年 11 月 5 日 アール・ブリュット心のままに 自由な発想や表現 魅力
 - まめぷろマガジン 2021 年 11 月 16 日 障害者アートがもっと楽しめる♪ギャラリートーク報告
 - ハビサポ! vol.039 2021 年 12 月号 障がいのある人の芸術文化活動を支援する相談窓口のご案内
 - まめぷろマガジン 2021 年 12 月 7 日 形はいろとりどり。「アール・ブリュットショウケース 2021」
 - まめぷろマガジン 2022 年 1 月 18 日 障害者のオンライン作品発表会作品募集中!

·広報印刷物



相談窓口のご案内



アール・ブリュットショウケース 2021 オンライン(募集案内)



北海道障害者のアート展



アール・ブリュットショウケース 2021 オンライン(開催案内)







障害者のオンライン作品発表会 ダレカガナニイカヲツクッテル (募集案内)



障害者のオンライン作品発表会 ダレカガナニイカヲツクッテル (開催案内)



障害者の芸術文化活動の支援を考えるセミナー

7. 事業評価委員会

今年度の事業成果について、第三者の意見収集や評価を行う目的で、事業評価委員会を実施した。評価委員は、ブロック内の道県 や社会・福祉・芸術において接点と多様な立場の方々となるようバランスを考慮して依頼しました。なお、当初は岩手県の人材にも 評価委員を依頼する予定でしたが、今年度は調整が間に合わず見送りとしました。

アールブリュット推進センター Gently 事業評価委員会

日時:2022年3月18日(金)15:00~16:40

実施方法:Zoom ミーティングによるオンライン会議

評価委員:

山田 努 様(岩見沢市健康福祉部福祉課 主幹)

奥脇 嵩大 様 (青森県立美術館 学芸員)

鹿子澤 佑介 様(社会福祉法人秋田県身体障害者福祉協会総務企画課 主事)

事業報告:

大友 恵理(アールブリュット推進センター Gently / 社会福祉法人ゆうゆう)

令和3年度Gently事業について評価委員からの評価

山田委員:

今年度の事業に幾つか自分で見たり参加したりと関わらせて頂いたが、その取り組み1つ1つが道や県が抱えている課題に対して目的意識が明確になって取り組まれているので素晴らしいと思った。コロナ禍でオンラインとリアルを組み合わせてハイブリッドで、ここまでよく取り組まれるのは今までの実績もあってのところだと思っている。私が勤めている市役所の健康福祉部では、イベントの自粛などを求める立場の部の中でアールブリュットの事業なども行っており、動きづらい面もある。今回のハイブリッドでの取り組みは、障害がある方の芸術というところをさらに超えて、ここまで取り組みができるというところをより多くの自治体の方に共有されてほしいと思う。1つ1つの事業の中で良い面と悪い面あるが、オンラインは気軽に作品を見られることがメリットで、その作品の大きさや小さくてもよく作っているというのは伝わりづらい部分があり、やはりリアルには敵わない。得意不得意があるので、それはしょうがない話だと思っている。舞台芸術について、気軽に鑑賞できることはメリットだが出演者から観客の反応が見えないというのはオンラインの一番苦手な部分と私は思っている。自分たちの演奏や舞台を見て観客が反応してくれるという経験がオンラインでは難しい。これからコロナも落ち着いてきてリアルでできる事もあると思うので、オンラインとリアルを上手く組み合わせていけたらいいのではないかと思う。

「岩手から広げる『であい授業プロジェクト』」に参加したが、当事者の方がオンラインで参加してもらえるのはとても貴重な場だと思う。やはり、 障害への理解だとか当事者の姿を通してリアルに感じられる部分もあると思うので凄い参考になった。勉強になった研修会だったので、是非アーカイブ という形で多くの人に見てほしいと思う。

奥脇委員:

山田さんもふれておられたが、コロナ禍において自分たちができること、オンラインとリアルを組み合わせたハイブリッドな形を模索されているところが見えて大変良かった。それを踏まえた上で、私は美術館の人間なので芸術の側でどう発信するかを考えたくなる立場で、やはりオンライン体験はリアルでの体験の代替にはならない、ということをつい考えてしまう。例えばアフタートークやダイジェスト動画というところで体験を提供するのはどうしても副次的な体験に留まるところがあるのではないか。障がいと芸術の関係を考えるうえで身体を介したコミュニケーション以上のものはない。コロナで観客を集めるのは難しいという前提もあるとは思う。けれども、観客との生の交流やその演者の方と観客の生の交流はではどのような形であればできるのかというところは、引き続き模索していただければと思う。アーティストと観客相互間の感染対策は徹底しなければならないが、様々な「障害」が可視化されたような今日の社会情勢下だからこそ可能な障がいと芸術の関係、生の身体の交流についての検討を少しずつできる可能性を絶えず模索していきたい。このような事を少しでも考えて頂ければ、面白い活動が北海道・北東北の中で推進していけるのではないかと思っている。

鹿子澤委員:

ブロック研修では、展示研修がとても良いと思う。私たち秋田県の実行委員会では、福祉畑の人が多いため手探り状態で展示している。展示研修が Zoom で受講できるということを知り、受講したかったと思っています。

広報活動としては秋田県障害福祉課を通して秋田県全域にチラシやメールで活動についてはかなり周知されている。また YouTube で広域からパフォーマンス団体が発表するのは意義があると思う。

改善すべき点としては、ウェブサイトだけだと独りよがりになってしまい実際見るのとは違うと思う。WEB を介して北海道や他県の方と情報交換できる事はいいと思うが、コロナが落ち着いてきたら実際に見に行きたいと思う。

8. まとめ

今年度は、事業の中止リスクを下げるために計画の多くを完全オンラインもしくはオンラインと現地開催を組み合わせたハイブリット型にすることで変化に備える体制で臨みました。その結果、当事者へ発表の場を提供するだけでなく、来場の難しい人へ鑑賞の機会を広げることにもつながりました。初めて取り組んだ美術分野のオンライン化では、昨年の舞台芸術同様、リアル開催では参加につながりにくかった参加者との出会いや発見がありました。様々なオンライン化にチャレンジすることはブロック内に新たなノウハウや障害者にとって有効な選択肢を獲得する機会になると当初から期待もありました。「生で触れる芸術」の大切さに異論はないものの、とくに障害者にとってのインフラとして作品との出会い方や発表方法が多様化し選択肢が増えることのメリットは注目に値するのではないでしょうか。オンラインと現地開催を、

適宜切り替えたり両方を同時に実現したりすることで、 分断化を乗り越え、よりオープンな受け入れ構造を育んで いけたらと考えます。

最後に、今年度は未設置県において秋田県・北海道とも 支援センター設置の意向が示されたことは、当ブロックに とって大きな成果となりました。今後は引き続き設置に向けた 支援と、既存の二つの支援センターの持続性についてとくに 注力していきたいと考えます。

IV. 支援センターの取り組み

<青森県>

青森アール・ブリュットサポートセンター(AASC)

2017 (平成 29) 年度より障害者芸術文化活動普及支援事業を受託し「青森アール・ブリュットサポートセンター」を設置しました。 障がいのある人からの創作環境や芸術文化の鑑賞に関する相談や、著作権の保護や二次利用に関する相談など幅広く対応し、展示会やセミナーを開催しながら、青森県内の芸術文化活動の活性化を目指しています。

●事業状況



●事業概要

〈相談支援〉

・相談窓口

〈人材育成〉

- ・支援者養成巡回プログラム
- ・トークセッション「アートとまちづくり」

〈関係者のネットワークづくり〉

• 協力委員会

〈発表等の機会の創出〉

- ・評価委員会
- 始まりのはじまり展
- ・関連企画 トークセッション「アートって地域の堆肥なの?」

〈情報収集・発信〉

●相談支援

担当者:譚 詩鏞(タン シヨン)

対応時間:9:00~17:00

対応方法:メール、電話、来所等

相談件数:72件 相談内容と対応の例:

(相談)障害者芸術に関する事業に協力してほしい。

(対応)実行委員として参加。

(相談)展覧会には多くの作品を出展したいが、どのくらいまで応募してよいのか?

(対応)応募要件も改めて説明したうえで、その要件に当てはまる作品であれば、1人1作品の中で何名でも応募可能です。と伝えました。

(相談)元々の障害特性に加え、病気の療養生活を送る時間が増えた。その前提で創作活動をしたいが、経済的に画材等を用意する ことが難しい。

(対応)「日中の施設で創作活動を行う場合は現在検討している居住地の地域活動支援センターなどに創作活動ができるかどうかを 問い合わせしてみると良い」とお伝えし、今後の具体的な助言は一度来所していただき、直接相談を受けることとしました。

●人材育成

支援者養成巡回プログラム

実施日時: 2021年8月25日~26日(第1回)、12月7日~8日(第2回)

実施会場:平川会場(社会福祉法人ほほえみ) 五所川原会場(社会福祉法人あーるど)

講師:岩手県るんびにい美術館 アートディレクター 板垣崇志氏

参加人数:第1回19名 第2回20名

実施内容:

コンサルタント部分では、創作活動の支援は作品を成果物として得ようという意識でおこなうのではなく、「表現をすること」そのものが作者にどんな感覚、感情、余韻をもたらすかに意識を向けることで、より表現が豊かになっていくというお話をしていただきました。また、シンプルな色画用紙と折り紙を使って造形するワークも実施。シンプルな素材を使うことで創作活動に苦手意識のある人も苦手感を感じることなく「自分の手元から美しいものが生まれる喜び」を得られる方法を教えていただきました。

評価:

「これが作品としてなるのだろうか?」と言うような意見を持っていた参加者から、参加後には、「こういったものも作品になる」といった、作品として「認める」という感覚を得ていただくきっかけになりました。







●関係者のネットワークづくり

協力委員会

日時: 2021年7月29日(金) 15:00~16:30 2022年3月11日(金) 10:00~11:30

開催方法:オンライン会議

実施内容: 事業の目的および事業計画を説明。また、令和3年度の事業の成果を報告し来年度の事業に向けて意見交換を行いました。

●発表等の機会の確保

評価委員会

日時: 2022 年 年 1 月 17 日 会場: 社会福祉法人あーるど

実施内容:

2月に開催する公募展に向けた評価委員会を開催。2人の評価委員を招き、

全応募作品を審査した上コメントをいただきました。



始まりのはじまり展

担当者:錠前 一真

日時: 2022年3月28日(月)~4月28日(木)

会場:社会福祉法人あーるど 実施媒体:Instagram による公開

実施内容:

「ありのままの公募展 2021」の応募作品のうち約 30 点を Instagram にて紹介。同時にトークセッション「アートって地域の 堆肥なの?」も開催しました。







トークセッション「アートって地域の堆肥なの?」

実施日時: 2022 年 3 月 27 日~3月 31 日 実施媒体: YouTube による限定公開

講師:司会 立木祥一郎

シンポジスト 小田香、奥脇嵩大、大橋一之

実施内容:

「アートやアーティスト達が街づくりに参画していくことによる地域活性化の可能性を探る」として、それぞれ違う立場にいる3名のシンポジストに、それぞれの角度から未来に向けたお話をいただきました。新型コロナウィルスの影響により開催を予定していた「ありのままの表現展 2021」が中止となったため、オンライン展覧会にて限定公開をしました





●情報収集

アウトプット展や日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバル in 東北ブロックの実行委員として県内の作家の情報共有等を行いました。

●情報発信

 ${\sf HP}$ ・ ${\sf Facebook}$ を活用し、展覧会や研修に関する情報を発信しました。 ${\sf HP}$ の総閲覧数は、 ${\sf 318}$ 件

●まとめ

例年、展覧会を開催していることにより、公募展への応募数やこれまで応募がなかった施設からの応募者も年々増えてきています。また、県内の福祉事業所等でも個別に展覧会を開催する団体も増えてきており、県民の障害者芸術への関心が高まっているように感じられます。創作活動を行う事業所は少しずつ増えてきていますが、取り組む事業所からはどのような内容を行ったらいいのかわからないなどの声も多数聞かれています。

このような状況から、今年度も岩手県るんびにぃ美術館のアートディレクター 板垣崇志氏をコンサルタントとして招聘し、県内2箇所の福祉事業所にて「支援者養成巡回プログラム」を事業として実施しました。創作活動の支援は作品を成果物として得ようという意識でおこなうのではなく、「表現をすること」そのものが作者にどんな感覚、感情、余韻をも

たらすかに意識を向けることの重要性をお話ししていただい たことで、参加者からは障害者の作品を成果物としてだけで なく、表現そのものを「認める」「許す」といった感覚が生ま れたとの感想を得ています。

ありのままの表現展 2021 については、応募数は過去最多の 220 点となりましたが、新型コロナウィルスの影響を受け、センターとして初の取り組みとなるオンライン展覧会「始まりのはじまり展」として実施しました。 SNS を用いることで、より多くの方々が障害者の作品に手軽に触れることができることができたと思います。

新型コロナウィルスにより中止せざるを得なかった事業もありましたが、展覧会の応募者数や相談件数等から見てもセンターとしても事業効果が出てきていると実感しています。

<岩手県>

岩手県障がい者芸術活動支援センター かだあると

岩手県障がい者芸術活動支援センターかだあるとは、社会福祉法人岩手県社会福祉事業団が岩手県より委託を受け、2018(平成30)年に開設しました。支援センターの愛称である「かだあると」は「参加する、集う、加わる」という意味の岩手の方言「かだる」と、エスペラント語で芸術を意味する「Arto(あると)」を組み合わせた造語です。障がいがあっても無くても誰もが参加できる「創作・表現」の場を作ることを大きな目標に掲げ、相談業務、各種研修会の開催、岩手県障がい者文化芸術祭の開催を通し、岩手県内の障がい者文化芸術の裾野を広げるために活動しています。

●事業状況



●事業概要

〈相談支援〉

- ・電話、メール等による相談受付
- ・弁護士による個別相談会(創作活動に関する権利保護研修会併催)
- ・外部アドバイザーとの振り返り会

〈人材育成〉

- ・障がいのある人の創作・表現活動支援に関する研修会
 - ~福祉的支援からアート支援へ~
 - ~しる・つながる・ひろげる~
 - ~施設・事業所等管理者編~
- ・創作活動に関する権利保護研修会
- ・障がいのある人の創作活動支援ワークショップアドバイス

〈関係者のネットワークづくり〉

- ・協力委員会
- ・ネットワーク形成のための各事業所からの取組紹介・意見交換

〈発表等の機会の創出〉

- ・第29回岩手県障がい者文化芸術祭応募作品展
- ・第29回岩手県障がい者文化芸術祭ふれあい音楽祭2021

〈情報収集・発信〉

- ・岩手県社会福祉事業団 HP での情報発信
- ・作品及び作家や取組事例の調査

●相談支援

担当者:岩手県社会福祉事業団事務局業務推進課 金野有実、尾形渉

対応時間:9:00~12:00、13:00~17:00(土日祝日、年末年始を除く)

対応方法:電話、メール、FAX

相談件数:12件

主な相談内容と対応:

① 創造機会に関する相談

(相談) 県内でアート関係の仕事を扱っている事業所や、全国の公募展(副賞、賞金があるもの)について情報提供いただきたい。

(対応) 県内で商品のデザインなどを行っている紹介。また、全国規模の公募展等については、(一社) 障がい者アート協会及びエイブルアート・カンパニーのアーティスト登録に係る要項等をお送りしました。

② 人材育成に関する相談

(相談) 研修会の講師を紹介していただきたい。

(対応) 昨年度支援センターの研修会で講師を務めていただいた方を紹介しました。

③ 権利保護(作品の販売に)関する相談

(相談) ハンドメイド作品の販売に関して相談したい。本や動画の作り方を組み合わせて制作したハンドメイド作品はネットやバザー で販売できるか。また、販売するための条件等を知りたい。

(対応) 予定していた相談会が延期になったため松岡弁護士に相談、回答を依頼。

同様の作品をネットやバザーで販売する際の留意事項について、具体的な事例を提示しながらお答えいただきました。

- 1、第三者の権利(著作権など)を侵害しないように注意すること
- 2、施設利用者の権利(著作権など)を侵害しないように注意すること

4)その他

(相談) センターの見学や、そこで働くことはできるか知りたい。

(対応) 当センターは県内障がい者芸術活動の間接支援を行っており、見学を行う施設ではないこと、障がいのある人の働く場と しての役割を担っていないことをお伝えしました。

●人材育成

障がいのある人の創作・表現活動支援に関する研修会~福祉的支援からアート支援へ~

実施日時: 2021年7月21日(水) 14:00~17:00

実施会場:岩手県高校教育会館 中会議室

講師: 板垣崇志氏(社会福祉法人光林会るんびにい美術館 アートディレクター)

参加人数:8人

概要:

障がい者文化芸術活動を支援する関係者を対象に、日々の創作活動支援について振り返りや活動の意義について考える講義や展示に関するワークショップを実施。 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のためオンラインを併用した開催としました。

評価:

- ・創作活動が支援者主体になりがちになっていたが、いつでも中心にいるのは 制作者である障がいのある人なのだと改めて感じた。
- ・支援時間に追われ、期限までに仕上げさせることを当たり前にしていた自分 自身の支援に気付き、反省した。
- ・今回の研修会は、今後オンラインでコミュニケーションを取っていくための 参考となった。展示についての講義は参考になったが、実際に触れながら実施 できたらなお良かった。



障がいのある人の創作・表現活動支援に関する研修会~しる・つながる・ひろげる~

実施日時: 2021年8月6日(水) 13:30~17:00

実施会場:岩手県社会福祉事業団事務局

講師: 新川修平氏(特定非営利活動法人100年福祉会片山工房 理事長)

阿部美春氏(社会福祉法人盛岡市民福祉バンク 3R センターハート店 店長)

参加人数:11人

概要:

県内外で先進的な取組を行う団体の代表を講師に迎え、取組紹介及び創作活動支援についてのディスカッションを実施。併せて、 参加者からも自事業所での取組紹介を発表いただき、講師から今後の活動に向けてコメントをいただきました。

評価・

- ・職員の都合で活動を勧めるのではなく、作り手が動き出すのを待つ、何がしたいのかを感じて受け止めていきたい。
- ・よく黒色を使用している利用者がおり、作品が暗くなると感じたので利用者が使用することを避けたが、利用者にとっては心地の 良い使用感がある可能性もあると聞き、職員の偏見で制限しないように心がけたいと思った。
- ・他事業所の活動状況を知ることができてとてもよかった。取り入れたいポイントが多々あった。





障がいのある人の創作・表現活動支援に関する研修会〜施設・事業所等管理者編〜

実施日時: 2022年2月18日(金)14:00~16:30

実施会場:岩手県高校教育会館 小会議室

講師: 梶原紀子氏(特定非営利活動法人もうひとつの美術館 館長) 藤原清史氏(社会福祉法人自立更生会盛岡杉生園 副園長)

参加人数:17人

概要:

障がい福祉サービス事業所の管理者、係長や主任等の職員を対象とし、県内外で先進的な取組を行う団体の代表を講師に迎え、 取組紹介及び創作活動支援についてのディスカッションを実施。質疑応答を通して講師と参加者の意見交換を行いました。

評価:

- ・いつも日常の中で目にしている物について、視点を変えて創作活動の材料にする工夫を発見できた。
- ・コロナ禍で展覧会もあまりできていなかったが、インターネットの活用など、地域との繋がりが持てるようにまだまだ工夫できる と感じた。
- ・何気なく活動に取り組んでいたが、「最終目標」を定めることで、どのような方針で取り組むべきか、姿勢が変わると感じた。



創作活動に関する権利保護研修会

実施日時: 2021年12月8日(水)13:00~17:00

実施会場: いわて県民情報交流センターアイーナ 会議室 817

講師: 松岡佑哉氏(石川法律事務所 弁護士)

鈴木裕子氏(岩手県文化スポーツ部文化振興課文化芸術担当 主任)

参加人数:5人

概要:

著作権の基本的な内容に関して、相談支援での事例も交えながら説明いただき、 創作活動に関する法律に関して理解を深めました。また、岩手県が策定した 「障がい者芸術文化作品における作家の権利保護に関する指針」及び岩手県内の 障がい者文化芸術に関する取組について説明いただきました。

評価:

- ・創作活動を行うにあたって、様々な権利が存在することを細かく知ることができた。
- ・創作活動する際に困っていたこと(廃棄など)への対処の参考となった。
- ・権利を意識し、使用許可等取り組むことで、作品を作る利用者、作品ともに守る ことに繋がると思った。



障がいのある人の創作活動支援ワークショップアドバイス

実施日時: 聞き取りミーティング 2022年1月21日(金)

職員向け講習会 2月10日(木) 利用者向けの実践 3月4日(金)

振り返り会 3月18日(金)

実施事業所:障害者支援施設松風園 講師:那須賢輔氏(prop代表)

概要:

障がい者の文化芸術活動に取り組む施設・事業所に指導者を派遣し、実際の創作 活動の中で実践的な手法等に関する指導を行いました。

評価:

・専門的な画材ではなく、入手しやすい材料や道具、そして講師の分かりやすい 説明から満足のいく活動ができた。今回の活動を通して、事業所全体(利用者の 職員も共に)で創作活動の本当の楽しさを発見できた。今後も職員間で工夫し 合い、継続して取り組んでいきたい。





●関係者のネットワークづくり

協力委員会

日時:1回目 7月15日(木)9:30~11:00

2回目 書面開催(3月末)

会場:1回目 岩手県教育会館 カンファレンスルーム 200

実施内容:

- ・1回目 令和3年度事業計画についての説明と意見聴取
- ・2回目 令和3年度事業報告
- ・その他、研修内容の相談、講師紹介、相談対応に係る相談を実施。年間を通して各分野の関係者と連携。

●発表の機会の創出

第 29 回岩手県障がい者文化芸術祭 応募作品展

実施日時: 2021年11月11日(木)~28日(日)

実施会場:ふれあいランド岩手 エントランス~ふれあいホール前

応募数: 応募総数 336 点 (絵画部門 135 点、書道部門 28 点、写真部門 25 点、工芸部門 128 展、文芸部門 20 点)

概要:

県内の障がいのある人の、日ごろの文化芸術活動の成果を発表する機会として、障がいのある個人、団体を対象に実施する公募展を開催。





第29回岩手県障がい者文化芸術祭 ふれあい音楽祭 2021

実施日時: 2021年11月22日(月)~令和4年1月31日(月)※動画公開期間

実施方法: オンライン開催 応募団体数:5団体

視聴数:369回(5団体合計数)

概要:

障がいのある個人、団体から楽器演奏、ダンス等の動画を募集し、岩手県社会福祉事業団 HP 特設ページにて公開。





●情報収集

作品及び作家や取組事例の調査

概要:

所属事業所で作品作りに励んでいる方について情報収集し、併せて事業所での創作活動の取組状況の聞き取りを行いました。 成果:

4 事業所での情報収集を実施。計 12 名の作家の作品を見せていただきました。また、各事業所で取り組んでいる活動の状況や、目標としていることなどを担当職員から伺いました。

●情報発信

・作品及び作家や取組事例の調査

概要:

所属事業所で作品作りに励んでいる方について情報収集し、併せて事業所での創作活動の取組状況の聞き取りを行いました。 成果:

4 事業所での情報収集を実施。計 12 名の作家の作品を見せていただきました。また、各事業所で取り組んでいる活動の状況や、目標としていることなどを担当職員から伺いました。

●まとめ

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の基本的な感染症対策を講じながら、いかに工夫を凝らして各業務を開催するかが問われる1年となりました。感染状況によっては延期や規模縮小の開催を余儀なくされましたが、オンライン活用によりいかに参加者が求める内容を提供できるか、県内の障がい者文化芸術の普及に貢献できるかを検討し、実施につなげました。

相談窓口について、対面による相談が年々減少傾向にある ため、オンライン活用や権利保護研修会以外にも相談会の 併催を検討することで、より相談しやすい環境を設定できる のではないかと感じています。

各種研修会について、オンライン併用による開催としたことで、遠方や勤務の都合上会場での参加が難しい方にも受講しやすい方法を設定することができました。また、一方的な発信にならぬよう、参加者からの創作活動の取組発表や、講師への質疑応答の時間を長めに設定するなどして、意見交換の場を厚く設けました。

オンライン活用が板についてきたその一方で、ふれあい音楽祭 2021 については、動画の応募や音源の問題等、見直すべき課題もあります。会場で開催する音楽祭とは違い、多くの参加を募るためには、オンラインでの動画配信となることで留意しなければならない法律上の問題や、撮影及び応募方法についての検討が必須です。作家及び作品や取組事例の調査についても、オンラインでは遠方の事業所と気軽にコンタクトを取ることができるものの、画面越しでは作品を細部まで確認することが困難であったため、「作品は実見してこそその価値を見出すことができる」と感じました。

新型コロナウイルス感染症の流行は今後も続くと思われますが、オンラインの活用か、感染症対策を講じての現地開催とするのか等、より効果的な方法を検討していきたいです。また、毎年開催している「岩手県障がい者文化芸術祭」が令和4年度で30回目を迎えるため、参加者の創作・表現活動への意欲に繋げる取組を考えていきたいと思います。

センター 一覧

広域センター

アールブリュット推進センター Gently

実施団体:社会福祉法人ゆうゆう

〒 061-0231 北海道石狩郡当別町六軒町 70-18

社会福祉法人ゆうゆう内

Tel 0133-22-2896 Fax 0133-23-0811

E-mail gently@yu-yu.or.jp http://gently-artbrut.com



支援センター

青森アール・ブリュットサポートセンター (AASC)

実施団体:社会福祉法人あーるど

〒 037-0017 青森県五所川原市漆川鍋懸 148-2

社会福祉法人あーるど内

Tel 0173-26-1021 Fax 0173-26-1021

E-mail aasc@aorld.com

https://www.aasc.jp/



岩手県障がい者芸術活動支援センター かだあると

実施団体: 社会福祉法人岩手県社会福祉事業団 〒 020-0114 岩手県盛岡市高松 3 丁目 7-33 社会福祉法人岩手県社会福祉事業団 事務局内 Tel 019-656-7081 Fax 019-681-2514 E-mail kadarto@iwate-fukushi.or.jp

http://www.iwate-fukushi.or.jp/



厚生労働省令和3年度障害者芸術文化活動普及支援事業 北海道・北東北ブロック報告書

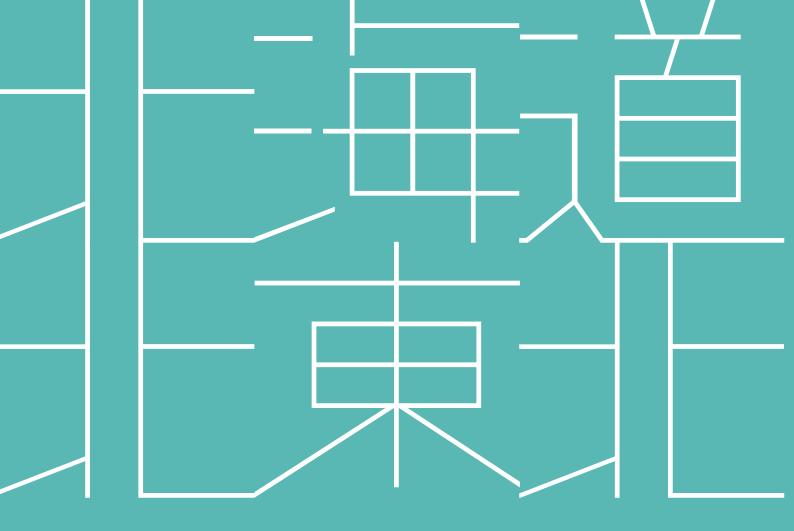
発行日 2022年3月31日

編集 有限会社トライアド デザイン 真砂雅喜

発行

アールブリュット推進センター Gently 事務局 社会福祉法人ゆうゆう 〒061-0231 北海道石狩郡当別町六軒町 70-18 Tel 0133-22-2896 Fax 0133-23-0811 E-mail gently@yu-yu.or.jp http://gently-artbrut.com

発行責任者 大原裕介



アールブリュット推進センター **Gently**